

原山小学校の歴史



今年度をもちまして長い歴史に幕を下ろすこととなった原山小学校。これまでの本校のあゆみを少しずつご紹介していきたいと思います。

No.39

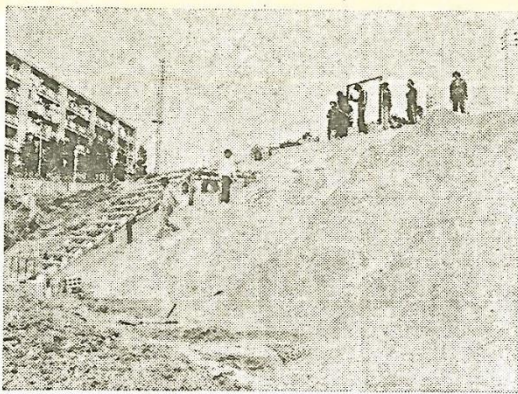
<昭和53年 3月 ハラハラ山命名>

子どもたちからの募集で「ハラハラ山」が最優秀賞として決まり、命名されました。他にも、優秀賞として「がんばり山・わんぱく山・わんぱく広場・原山ランド・のぼるぞん・はげみの丘・太陽の丘・なかよし坂・ぼうけんの丘・なかよしスロープ」の10点が選ばれました。

毎日新聞 1978年(昭和53年) 2月28日 (火曜日)

これで 体力つけて

瀬戸・原山小に体育施設



父母、先生がプレゼント

「子どもたちの体力増強」として、瀬戸市の愛宕山の原山小(校長 森本成行、児童17人)運動場脇の斜面に手づくりの体育施設、名づけて「ハラハラ山」が完成し、一日、完成式が行われる。

この施設は、同小児童の体力が、児童や園児にまであつて、雨の降るたびに土砂の崩れが目立っていた運動場脇の斜面(高さ約5m)の土を削り、斜面の裾約300平方メートルを削り、コンクリートでかため、かけのぼり、タイヤに乗って降りたりするスロープ、岩登り遊び用のでこぼこ斜面のほか、タイヤを並べて滑降するタイヤケブルなど、遊びながら体力づくりに役立つ施設が完成し、いわば、いままでの「ハードなストレッチ」ミニ版。

ハラハラ山の呼び名は児童から募集の結果、四年生の野村浩司君のアイデアを採用したもので、原山小のハラをとったうえ「スリルに満ちたハラハラする」「遊んでハラが破る」の意味がこめられているという。

また、スロープには児童の作品をヒントに、まわりと木々に囲ったスリット状の伸びる木の柱が描かれた。

完成式では六年生児童がハラハラ山の「使い初め」をするこゝろになっており、同小ではこれにいう、な使い方を工夫、児童に利用を呼びかけるとともに、児童にも一部利用していきなさいと体力不足の解消に努めている。

『毎日新聞』 1978年2月28日

<昭和53年 3月 町名変更>

原山小学校の住所が変更されました。

瀬戸市緑町1番地 → 瀬戸市原山台3丁目98番地(現住所)

<昭和53年 3月20日>

この日、卒業生111名の卒業式が行われました。卒業記念として、桜とマテバシイを植えたそうです。どこに植えられたのかは分かりませんが、落ちているどんぐりで、毎年子どもたちを楽しませてくれています。